



## ◇ 秋田県優秀作品 ◇

### 「お米とわたし」

藤里町立藤里小学校 6年

水戸<sup>みと</sup> 芹菜<sup>せりな</sup>さん



私の親戚は農家でお米を作っています。家族も私もごはんが大好きです。学校での田植えや稲刈りを通してお米の大切さを知り、それを伝えるために書きました。

部活から帰ってくると家の中はほかほかご飯のにおいがぼうんとただよっています。私はご飯が大好きです。お肉やお魚といっしょに食べたり、のりやふりかけをかけて食べたりしているような食べ方があるからです。それにご飯は栄養満点で食べると元気が出ます。

私は、五年生のころに田植えと稲かりを体験しました。藤里町にはさくたんの田んぼがあり、田植えや稲かりをしている人をよく見かけます。実際に田植えを手作業でやってみると足、こしがいたくなるし、なかなか進まなくて大変でした。だけど、おいしいお米ができるように心をこめて苗を植えました。稲かりは、かまを使ってザクツ、ザクツと切っていききました。小雨がふっていたので少ししかなかったです。いい体験ができました。田植えや稲かりの他にも、稲の長さを測ったり、花がついたかどうかを見てみたりして稲の成長を勉強しました。このような勉強を通して、米づくりをしている方々は水の管理をしたり稲の長さを測ったりするなど自分の子どものように大切に育てているんだなと思いました。

また、JAの方々が来て食べ物の食料自給率について教えてくださいました。日本は外国に比べて食料自給率が低いんです。少しでも食料自給率を上げるために、ご飯を一口でもいいから食べてほしいというJAの方々の思いがすごく心に残りました。それまで私

は、朝ご飯は毎日パンを食べていました。これからは、食料自給率を上げるためにもご飯を食べたいと思いました。その他にも地域でつくられた野菜や果物などを食べる「地産地消」を進める活動もあることを知ったので、私たちもできるだけ地元でとれたものを食べたいと思います。

私のひいおじいさんとひいおばあさんも米づくりをしています。季節ごとに見る田んぼの風景は全然ちがうので、家に行くたびに田んぼを見るのが楽しみです。秋になるとお米をたくさんもらいます。そのお米はまだ玄米のままなので精米しに行きます。小さいころから精米をしに行く父について行っていました。ガガガガとなつて白米になっていくのが楽しみでわくわくしていました。白米になって出てきたお米をさわってみるとサラサラしていてお米の何ともいえないにおいがします。家に帰ってお米をとぐのは、私とおばあさんでやっています。水を捨てるときは、お米を落とさないようにそつと流します。小さいころの私をとでもなつかしく思います。

皆テーブルの前にすわってたきあがったご飯を「やっぱり新米はおいしいね。」などと話しながら食べます。私はご飯を食べる前にご飯のにおいを楽しめます。

毎日食べるご飯、皆で食べるご飯。お米をおいしく育ててくれた人に「ありがとう」という気持ちで、ご飯を食べたいです。